

うるま市・南城市・八重瀬町商工会が発足

商工会合併で34商工会に

市町村合併に伴い、組織の合併を進めていたうるま市商工会、南城市商工会、八重瀬町商工会が平成19年4月1日に発足しました。うるま市商工会は平成17年4月に合併したうるま市内の旧具志川、旧石川、旧勝連、旧与那城の4商工会が合併し、会員2,453人、役員数35人、職員数24人(本所、石川支所、与勝支所の合計)を擁する県内最大規模の商工会になりました。

発足式では知念市長、島袋市議会議長、比嘉市商工会会長、萩堂県連会長が「うるま市商工会」と刻印された新しい看板を設置しました。比嘉会長は「合併に伴い、行政の協力を得ながらリーディング商工会の実現を目指し、より積極的に商工業者の活性化を支援し、地域の経済振興、発展に寄与していきたい」と挨拶しました。

南城市商工会は、平成18年1月に合併しました南城市内の旧佐敷、旧玉城、旧大里、旧知念の4商工会が合併し、会員数944人、役員数25人、職員数14人となっています。

八重瀬町商工会は、平成18年1月に合併しました八重瀬町内の旧具志頭、

旧東風平の2商工会が合併し、会員数430人、役員数22人、職員数7人となっています。

合併を実現した3商工会では、合併による効果として①地域の拡大によるビジネスチャンスの拡大、②事務局体制の充実による専門的かつ高度な支援サービス③連携強化による商工業振興策の推進等様々な効果が期待できますが、地域の特性を活かした各種事業の展開により、他の商工会の模範となるべく邁進してもらいたいものです。

うるま市商工会開所式



祝辞を述べる萩堂県連会長



看板を設置した比嘉会長(右から2人目)ら関係者



あいさつする比嘉会長



新しい看板の前に参列した新垣会長(左から3人目)ら関係者